

公立大学法人島根県立大学
平成29年度に係る業務の実績に関する評価結果

平成30年8月
島根県公立大学法人評価委員会

1 評価にあたって

公立大学法人島根県立大学の平成 29 年度の業務実績に関する評価については、「公立大学法人島根県立大学の各事業年度の業務実績評価（年度評価）実施要領」に基づき、以下のとおり実施した。

(1) 島根県公立大学法人評価委員会委員

	氏名	役職
委員長	服部 泰直	国立大学法人島根大学長
委員	渋川 あゆみ	助産師
委員	服部 京子	元県立飯南高等学校長
委員	三島 明	公認会計士
委員	宮脇 和秀	(株)ミック代表取締役社長

(2) 評価の方法

- ① 年度評価は、「全体評価」と「項目別評価」により実施した。
- ② 「全体評価」は、次に掲げる「項目別評価」の結果を踏まえ、中期計画の進捗状況全体について評価を行った。
- ③ 「項目別評価」は、大学法人から提出された業務実績報告書を検証し、年度計画の記載事項毎に 5 段階(5～1)で評価するとともに、中期目標項目別に AA～D の 5 段階で評価を行った。なお、「Ⅱ大学の教育研究等の質の向上」に関する項目については、5 段階評価ではなく、進捗状況・成果を総合的に評価した。

[中期目標項目]

I	社会情勢の変化に的確に対応した大学づくり
II	大学の教育研究等の質の向上
III	自主的、自律的な組織・運営体制の確立
IV	評価制度の充実及び情報公開の推進
V	その他業務運営に関する重要事項

[中期目標項目別の評価基準]（「Ⅱ大学の教育研究等の質の向上」に関する項目を除く）

評価	基準
AA	特筆すべき進捗状況にある (評点平均値 4.3～)
A	順調に進んでいる (評点平均値 3.5～4.2)
B	概ね順調 (評点平均値 2.7～3.4)
C	やや遅れている (評定平均値 1.9～2.6)
D	大幅な改善が必要 (評定平均値～1.8)

評点平均値：年度計画各項目を 5 点満点で評価し、中期目標項目毎に平均値を算出したもの。

2 全体評価

(1) 概要

島根県は、平成 19 年 4 月に地方独立行政法人法に基づく公立大学法人島根県立大学を設立した。そして、平成 19 年度から平成 24 年度までの第 1 期 6 年間に続き、平成 25 年度からの第 2 期 6 年間についても、島根県は大学が達成すべき目標(中期目標)を指示し、大学の取組を促しているところである。

全国的に地方創生の取組が進められる中、地方公共団体が設置する公立大学には、これまで以上に地域課題の解決に向けた役割が期待されているとともに、地域や時代の要請に応え、特色ある、学生にとって魅力ある高等教育機関として発展し、地域へ人材を輩出していくことが求められている。

平成 29 年度の業務実績評価については、点数評価を行う 4 つの大項目が A 評価（「中期目標の達成に向けて順調に進んでいる」）であった。

(2) 評価の視点

当評価委員会が大学運営・教育研究について、評価に際して考慮した事項を視点別に掲げると、以下のとおりである。

○ 学生の入学

- 大学の魅力・特色を伝える積極的な入試広報に取り組んだ結果、どの学部学科においても昨年度を上回る志願倍率を達成し、新学部「人間文化学部」においても 3 倍を超える志願倍率となった。
- 県内入学率では、全てのキャンパスで前年度を上回るなど、県内高校への働きかけといった県内入学者の増加に繋がる取組に成果がでてきている。ただ、浜田キャンパスにおいては、依然として低い水準であることから、さらなる取組を期待する。

○ 学生の就職

- 平成 29 年度卒業生の就職率は、浜田キャンパス 96.1%、出雲キャンパス 100%、松江キャンパス 98.0%と昨年度に引き続き高い水準を維持した。
- 県内就職率（就職希望者に占める県内就職者）については、浜田キャンパスにおいて昨年度比 8%増となるなど、取組に成果が出ている。引き続き、地域の担い手となる人材の県内定着のため、さらなる取組の強化を期待する。

○ 地域貢献

- ・ 文部科学省に採択された「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」において、5カ年の最終年として、島根の課題や解決策を学ぶ教育の充実を図るとともに、地域産業の活性化といった地域課題を解決するための研究や、地域への学習機会の提供など、地域貢献に取り組んだ。
- ・ 引き続き、地域の抱える課題や県立大学に対する地域のニーズを敏感に察知した上での取組の推進に期待する。

○ 国際交流

- ・ 新たな海外の大学との包括協定の締結や、学生の海外活動を支援する制度を創設するなど、国際的な教育環境を整備した。
- ・ 国際交流参加者については、前年度より18名増の165名となるなど、取組に成果が見られるものの、目標の年間180人には届かなかったことから、今後のさらなる取組を期待する。

(3) 総括

以上のことから、第2期中期目標期間5年目である平成29年度の業務運営は、「**中期目標の達成に向けて順調に進んでいる**」と評価する。

[今後に向けた留意点]

島根県立大学は平成31年度より、第3期中期目標期間を迎える。県が外部有識者の意見を踏まえて作成した第3期中期目標（案）では、県立大学の目指すべき姿を「地域貢献・教育重視型大学」と位置づけ、地域に貢献する人材の育成・輩出や、地域が抱える諸課題を解決するための研究及び教育を重視するなどの目標を示している。

今後、大学で中期計画を作成することとなるが、中期目標に定める事項の着実な実施に向けて、具体的かつ戦略的な検討を進められたい。

3 項目別評価

I 社会情勢の変化に的確に対応した大学づくり

(1) 評価結果と判断理由

- 計画項目の集計結果では、A評価（順調に進んでいる）である。
 - ・ 社会情勢の変化や地域のニーズに対応するための新学部が予定通り設置されるとともに、大学の新たな体制・組織づくりへの取組が認められることから、中期目標の達成に向けて順調に進んでいると認められる。
- 以上により、中期目標項目評価としては、A評価（順調に進んでいる）と評価する。

A	順調に進んでいる	評点平均値 4.00
---	----------	------------

(2) 実施状況

- 松江・出雲キャンパス
 - ・ 平成29年度中に新学部設置に係る国をはじめとした関係機関からの認可等を受け、目標としていた平成30年4月1日に松江キャンパスに人間文化学部、出雲キャンパスに看護栄養学部を開設した。
- 全学・浜田キャンパス
 - ・ 島根県が設置した第3期中期目標検討のための有識者会議の提言書を受けて、大学内に改革本部を設置し、浜田キャンパスの学部学科や入試制度等のあり方について検討を開始した。

Ⅱ 大学の教育研究等の質の向上

(1) 高い知性と豊かな人間性を育み、社会に役立つ人材を輩出する大学

(評価の視点)

- ・ 質の高い教育の提供や学生に対するきめ細やかな支援がなされ、幅広い教養、知識、課題発見・解決能力、変貌する経済・社会への対応力を有した人材を育成できているか。

(特筆すべき点 (注目される点))

【アドミッション】

○ 全学

- ・ オープンキャンパスや、高校での大学説明会、学生による母校（高校）訪問といった入試広報を重点的に行った結果、どの学科においても昨年度を上回る志願倍率を達成するとともに、新学部である人間文化学部でも3倍を超える志願倍率となった。

○ 浜田キャンパス

- ・ 大学見学について、昨年度を大きく上回る45校284名（昨年度4校）を受け入れるとともに、オープンキャンパスでは受験生のニーズに応える自己推薦入試対策コーナーを設け、366名の参加者（昨年度205名）を得るなど、積極的な入試広報に努めた。

○ 出雲・松江キャンパス

- ・ 新学部のPRのため、新聞やテレビCM、インターネット上での動画公開、オープンキャンパスなど、重点的な広報を実施し、受験生の確保に繋げた。

【キャリア】

○ 全学

- ・ 3キャンパスとも、昨年に引き続き高い就職率を維持した。
(浜田96.1%、出雲100%、松江98.0%)

○ 浜田キャンパス

- ・ 公務員受験対策である「公僕学舎」について、小論文講座、グループディスカッションなど新たなプログラムを開設し、より実践的な試験対策を展開した。

○ 出雲キャンパス

- ・ 看護師及び助産師は国家試験合格率 100%を達成し、保健師についても 96.8%と高水準の合格率だった。

○ 松江キャンパス

- ・ 栄養士資格取得 100%、保育士資格及び幼稚園教諭免許の併有率 100%を達成した。
- ・ 島根県中小企業家同友会と協定を締結し、学内でのインターンシップフェアを開催するなど、就職支援の取組を進めた。

【その他教育・学生支援に関する事項】

○ 浜田キャンパス

- ・ 学生の生活実態を把握するため4年に1度実施している「学生生活調査」について、今年度から「学生生活調査ミニアンケート」を毎年度実施し、学生が求める支援をより即時に把握するように努めた。

○ 出雲キャンパス

- ・ 大学院看護学研究科では、平成 28 年度の開設後初めての修了生を輩出し、高度な技術を持った看護師を地域に輩出した。また、専門領域の充実を図るべく教育課程の検討を行い、平成 30 年度よりウィメンズヘルス看護学領域を立ち上げることにした。

(遅れている点 (課題がある点))

【FDの取組】

○ 浜田キャンパス・松江キャンパス

- ・ 学生アンケート回答率と教員フィードバック提出率が、出雲キャンパスと比較して低くなっている。平成29年度より授業公開を本格的に実施し、学生アンケート回答率や教員フィードバック提出率が前年度を上回る学期もあるなど、取組に成果が見られる点もあるが、今後、更なる取組の強化を図りたい。

FD (ファカルティ・ディベロップメント (Faculty Development))

教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称

(2) 地域に根ざし、地域に貢献する大学

(評価の視点)

- ・ 地域に根ざした大学として、積極的に地域に関与する姿勢を持ち、地域課題研究の推進や、地域の多様な学習ニーズへの対応など地域に貢献する大学を目指しているか。
- ・ 公立大学として、地域の求める人材を育成し、輩出しているか。

(特筆すべき点 (注目される点))

○ 全学

- ・ 平成25年度に採択を受けた「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」について、5カ年の採択期間を事業計画通りに実施した。
- ・ 地域の課題や解決策を学び、島根に精通した学生を認定する「しまね地域マイスター」制度では、「しまね地域共生学入門」を3キャンパスの必修科目として開講し、地域の現状・課題を学ぶ体制づくりを進めた。また、四大部の学生(浜田・出雲キャンパス)を対象に、地域課題について議論・報告する科目を実施するなど、学部横断的に地域の課題解決能力・実践力を持った人材育成を進めた。
- ・ 絶えず変化する地域が抱える課題や県立大学に対する地域のニーズを敏感に察知した上で、地域貢献を重視した大学運営が推進されることを期待する。

○ 浜田キャンパス

- ・ 自治体との共同研究は、浜田市6件、益田市3件、浜田市・邑南町共同1件を実施し、浜田市の新しいお土産の開発や益田商店街の活性化といった地域課題解決のための研究に取り組んだ。
- ・ 出雲・松江キャンパスの県内就職率が概ね横ばいの中、浜田キャンパスは昨年度より8%の上昇となり、県内就職率への取組に成果が出ている。引き続き、地域の担い手となる人材の県内定着のため、学生が県内企業を知るための企画への参加者増や、卒業生の実態把握や、一度就職したのち数年で離職したいいわゆる第2新卒者への支援などの取組を進め、さらなる成果を期待する。

○ 出雲キャンパス

- ・ 緩和ケア認定看護師教育課程では、平成 29 年度、14 名の修了生があり、地域の看護ニーズに応える人材を輩出した。また、平成 30 年度からの新課程として、日本看護協会から認知症看護分野の認定看護師教育課程として認定を受け、引き続き地域の医療課題に対応する人材育成を進めることとなった。

○ 松江キャンパス

- ・ 社会人学び直しのための制度「履修証明プログラム」では、平成 28 年度からの 2 年間で、のべ 190 名、実人数 78 名の履修者があり、保育関係者や図書館司書等に学び直しの機会を提供した。
- ・ 大学図書館や、幼稚園・小学校を中心とした出前による読み聞かせ活動など、大学をあげて地域貢献活動を行っていることが評価され、島根県から「県民いきいき活動奨励賞」を受賞した。

(遅れている点（課題がある点）)

○ 浜田キャンパス

- ・ 全てのキャンパスで前年度を上回る県内入学率となり、県内入学率増加に向けた取組に成果が出ているものの、浜田キャンパスは、依然として県内入学率が他キャンパスと比較して低いことから、さらなる取組が必要である。

(3) 北東アジアをはじめとする国際的な教育研究を推進する大学

(評価の視点)

- ・ 北東アジアをはじめとする国際的な教育研究を推進し、国際的にも活躍できる人材育成を進めているか。
- ・ 外国の大学との学術ネットワークの形成や留学生の派遣交流が積極的に行われているか。

(特筆すべき点 (注目される点))

○ 全学

- ・ 平成30年度からの異文化理解研修の新たな研修先である「ランガラ大学(カナダ)」との間に包括協定を締結した。
- ・ 学生が自ら計画する様々な海外活動を支援する「海外実践活動支援制度」を創設し、国際交流サークルや個人研究といった学生の海外活動を促進する環境を整備した。

○ 浜田キャンパス

- ・ 交流協定校へ留学する学生の英語力を高めるための「TOEFL準備講座」を開講し、受講者のうち3名がアメリカの大学へ短期留学するなど、海外交流実績に繋がった。

○ 出雲キャンパス

- ・ 異文化理解研修の授業科目としての単位化や、学内での報告会の実施など、海外研修参加者を増やす取組を進めたことで、海外交流事業参加者の実績増に繋がった。

○ 松江キャンパス

- ・ 松江・浜田両キャンパスによる海外語学研修(アメリカ)や、島根大学と合同の海外短期研修(台湾)に参加するなど、キャンパス・大学を横断した取組を実施し、海外交流事業を促進した。

(遅れている点 (課題がある点))

○ 全学

- ・ 海外留学、海外研修など国際交流事業参加者は165名となり、昨年度より18名の増となったものの、目標の年間180人以上には届かなかった。各キャンパスで参加者増への取組に成果が出ており、今後の取組に期待する。

Ⅲ 自主的、自律的な組織・運営体制の確立

(1) 評価結果と判断理由

- 計画項目の集計結果では、A評価（順調に進んでいる）である。
 - ・ 研究に関する外部資金獲得のための取組を進め、中期目標で定める外部資金獲得の数値目標を達成するなど、中期目標の達成に向けて順調に進んでいると認められる。
- 以上により、中期目標項目評価としては、A評価（順調に進んでいる）と評価する。

A	順調に進んでいる	評点平均値 3.91
---	----------	------------

(2) 実施状況

○ 全学

- ・ 外部の研究資金獲得の取組について、科学研究費獲得のための研修会や学内に科学研究費アドバイザーを配置し、教員の相談体制を整備するなど取組を進めたことにより、中期計画で定める数値目標を達成した。

IV 評価制度の充実及び情報公開の推進

(1) 評価結果と判断理由

- 計画項目の集計結果では、A評価（順調に進んでいる）である。
 - ・ 学生や地域からの意見・要望をもとに、教育の魅力向上や大学の新たな方向性に向けた検討を進めるなど、中期目標の達成に向けて順調に進んでいると認められる。
- 以上により、中期目標項目評価としては、A評価（順調に進んでいる）と評価する。

A	順調に進んでいる	評点平均値 4.00
---	----------	------------

(2) 実施状況

○ 全学

- ・ 学生や地域からの意見・要望を、教育・大学運営に積極的に反映させ、改善を図った。

[改善事例]

- ・ 浜田キャンパスにおいては、教員配置の関係により、入学年度ごとに専攻可能なゼミに差が生じていたものを、学生の要望を踏まえて、対応可能な直近の年度である平成31年度から改善することとした。
- ・ 大学内部に第3期中期目標期間における大学改革の方向性を検討する改革本部会議を設置し、県の中期目標（案骨子）や大学支援協議会からの要望等を踏まえた検討を開始した。

V その他業務運営に関する重要事項

(1) 評価結果と判断理由

- 計画項目の集計結果では、A評価（順調に進んでいる）である。
 - ・ 積極的な広報・広聴活動や、OB・OGとの交流など、地域や高校生といった関係方面に対して開かれた大学となる取組を進めており、中期目標の達成に向けて順調に進んでいると認められる。
- 以上により、中期目標項目評価としては、A評価（順調に進んでいる）と評価する。

A	順調に進んでいる	評点平均値 3.95
---	----------	------------

(2) 実施状況

【広報広聴活動】

- 全学
 - ・ 様々な広報媒体を組み合わせながら、特色ある入試広報を実施した結果、どの学部学科においても昨年度を上回る志願倍率を達成し、新設した「人間文化学部」においては、3倍を超える志願倍率となった。
- 出雲キャンパス
 - ・ 近隣住民から意見を聴取するキャンパスモニター会議や、保健・医療を含む幅広い関係者から意見を聴取するキャンパスプラットフォーム会議を開催するなど、地域・関係機関の意見を大学運営に反映させる取組を実施した。

【その他】

- 浜田キャンパス
 - ・ キャリア授業の中でOB・OGを招き、キャリア形成・就職活動に関する講演会の開催や、就職活動中の学生相談会を実施するなど、卒業生と協力してより実践的なキャリア教育を実施した。

[項目別評価資料]

公立大学法人島根県立大学平成29年度業務実績評価 評点算定表

中期目標(大項目)	平成29年度計画評点			中期目標 項目別 評価結果	
	中期目標(中項目)	評点合計 (A)	計画項目数 (B)		評点平均値 (A)/(B)
	中期目標(小項目)				
I 社会情勢の変化に的確に対応した大学づくり		12	3	4.00	A
II 大学の教育研究等の質の向上	5段階評価を行わない項目				
III 自主的、自律的な組織・運営体制の確立		86	22	3.91	A
1 業務運営の改善及び効率化		39	10	3.90	
(1) 運営、組織体制の改善による効率的、合理的な経営		11	3	3.67	
(2) 人材管理の適正化		28	7	4.00	
2 財務内容の改善による経営基盤の強化		47	12	3.92	
(1) 自己財源の充実		31	8	3.88	
(2) 経費の抑制		12	3	4.00	
(3) 監査体制の充実		4	1	4.00	
IV 評価制度の充実及び情報公開の推進		28	7	4.00	A
1 評価制度の充実		20	5	4.00	
(1) 組織を対象とした評価制度		12	3	4.00	
(2) 個人を対象とした評価制度		8	2	4.00	
2 情報公開の推進		8	2	4.00	
V その他業務運営に関する重要事項		87	22	3.95	A
1 広報広聴活動の積極的な展開など		55	14	3.93	
(1) 戦略的な広報の実施		19	5	3.80	
(2) 大学支援組織との連携強化		24	6	4.00	
(3) 広聴活動の実施		12	3	4.00	
2 施設設備の維持、整備等の適切な実施		4	1	4.00	
3 安全管理対策の推進		12	3	4.00	
4 危機管理体制の確保		4	1	4.00	
5 人権の尊重		8	2	4.00	
6 環境マネジメントシステムの構築・推進		4	1	4.00	

評価	基準	
AA	特筆すべき進捗状況にある	(評点平均値 4.3~)
A	順調に進んでいる	(評点平均値 3.5~4.2)
B	概ね順調	(評点平均値 2.7~3.4)
C	やや遅れている	(評定平均値 1.9~2.6)
D	大幅な改善が必要	(評定平均値~1.8)

4 参考

(1) 学生確保の状況

① [入試志願倍率]

区分	H28 入試	H29 入試	H30 入試
浜田	5.94	5.07	5.42
出雲	2.05	3.60	3.60
松江(四)	—	—	3.14
松江(短)	2.52	2.41	3.98

② [入学者に占める県内者割合]

(単位：%)

区分	H28 入試	H29 入試	H30 入試
浜田	28.8	21.7	24.3
出雲	63.8	51.2	61.5
松江(四)	—	—	60.7
松江(短)	69.8	69.1	72.1

(2) 就職の状況

① [キャンパス別就職率]

(単位：%)

区分	H27	H28	H29
浜田	99.1	98.0	96.1
出雲	100.0	100.0	100.0
松江(短)	98.5	97.5	98.0

② [県内就職率(就職希望者に占める県内就職者)]

(単位：%)

区分	H27	H28	H29
浜田	25.0	22.5	30.6
出雲	59.5	47.0	50.0
松江(短)	67.5	68.0	67.7

※各数値は、大学院、別科を除く。

(3) FDの取組みの状況

① [学生アンケート回答率]

(単位：%)

		H 2 7	H 2 8	H 2 9
浜田	春学期	47.2	41.4	44.7
	秋学期	35.1	34.6	38.3
出雲	春学期	96.4	98.8	99.9
	秋学期	98.0	100.0	99.5
松江	春学期	85.7	77.0	83.7
	秋学期	71.5	65.1	58.3

② [専任教員によるフィードバック提出率]

(単位：%)

		H 2 7	H 2 8	H 2 9
浜田	春学期	61.7	55.1	62.2
	秋学期	53.2	53.2	61.4
出雲	春学期	100.0	100.0	100.0
	秋学期	100.0	100.0	100.0
松江	春学期	86.7	54.5	63.6
	秋学期	—	56.7	78.1

(4) 海外交流の状況

交流協定締結大学等との交流事業参加者

(単位：人)

区分	H 2 7	H 2 8	H 2 9
浜田	66	78	89
出雲	17	24	46
松江	28	45	30
計	111	147	165